南区障害者基幹相談支援センター基幹だより　３月号

自立支援連絡協議会報告

●平成２９年度「課題検討会」２月２０日開催

課題検討会は南区自立支援連絡協議会で２回目となりました。名古屋市自立支援協議会・南ブロック会の報告と各ワーキングの課題等の報告をしました。

また今年度は『人材確保・育成』と『移動・移送』をテーマに話し合いました。

① 『人材確保・育成』について

事業所連絡会ワーキンググループのアンケートから、未経験者を採用せざるを得ず、発達障害や精神障害への対応が困難で、早期に退職している現状が浮かび上がっている。

名古屋市自立支援協議会ではチラシを作成し、まずは人材確保を目指している。

社協の子育てネットにおいて、主任児童委員が、地域における障害理解に困難を感じている発言があった。民生委員・町内会長にも、地域住民の、高齢者・障害者の理解が難しいという共通課題がある。

以前よりは、障害をオープンにする傾向がある。一方で、障害をオープンにすることで、イメージが先行する面がある。SNS を通じて、遠方の人への相談をすることもある。

障害分野だけではなく、区の推進協議会でも、地域活動の担い手がない課題がある。

５年目以降の離職率は低い。賃金が、他の業界よりも、低い現状がある。

中堅の人材不足で、新人を支えきれない。児童分野は、事業所は増えるが、働き手がいない。

② 『移動・移送』について

朝３０分のみの移動支援では、ヘルパーの受け手がない。報酬の総体を上げ、抜本的に報酬のあり方を見直さないと困難。日中事業所でも人手不足が深刻で、人員配置がぎりぎり。

高齢者でも、サロンや給食会にいけない課題があり、特別養護老人ホームで送迎をした例もあるが、保険の問題もある。

○来年度ワーキングでできることは？

・相　談：利用者がヘルパー不足で困っている実態を課題で上げていく。

・事業所：民間の事業所の集まりなので、事務局体制も含めて、できる範囲しかできない。予算も含めて、公的な役割を強化してほしい。行政の縦割りのなかで、類似の事業を、別の課で実施している現状がある。

・入院時：重度障害者の課題がある。今後の方向性を検討中。

・児　童：子どもの生活を考える場にしたい。学校との連携も強化したい。

・福祉力：精神障害に関する発信をしていきたい。

・防　災：障害理解の啓発も含めて活動したい。

●相談ワーキング

２月は事例検討と次年度の報酬改定について話し合いました。３月は各事業所の振り返りやモニタリングについて話し合いました。

●地域福祉力を伸ばそう　大切な人の変化に気づく～あなたも誰かのゲートキーパー研修

自殺は複数の要因で起きる。自殺未遂者は再発の可能性あり、傾聴が大事である。
コミュニケーションの基礎としては、聴く（傾聴）はすべての対人援助の元である。
気持ちの通じ合いと相手の気持ちを推し量ることである。
聴くことの効果は、良き隣人として人の話を聞いたことで相手は癒され解決する事もできる。寄り添うことが大事。
・共感的理解　状態を理解するが、価値観を肯定するわけではない
・受け止める　　あまり追及しない　批判しない。
解ってもらえて喜びと緊張がゆるみ、自分を見つめることができる。
結論を決めるのは本人に決めてもらう。
必要以上に肯定しない。アドバイスしない。励まさない。気持ちを吐き出せるまでずっと聞き続ける。
話を聞くときは信頼関係づくりをしていくことと秘密保持が大切だが、そのうえで興味、視線、表情など観察をする。

① 聴く姿勢を伝える。　　あいづち　　繰り返しなど
② 重要な点をつかむ。　言い直し、言い換えをする。
③ 関心を示し、重要な点に話を向ける
④ 話しをまとめる

コミュニケーションの基礎は聴くことであり、信頼関係を作ることが大切である。
善意のおしうりはしない。支援とおせっかいは違う。
人は成長する力を持っている。地域の力があれば良い方向に向かう。
グループワークも行い、とても好評でした。

●福祉関係事業所連絡会　精神研修　３月１３日開催

毎年好評で今回は愛着障がいについて社会福祉法人親愛の里の青木様を講師に迎え、お話しを聞きました。
愛着スタイルは「第二の遺伝子」と言われ、人格形成や人間関係、社会生活、社会適応などにも大きく影響する
愛着スタイルが確立されるのに大切な時期。

① 臨界期は生後６か月から２歳まで求めたら応えてくれる　　＝基本的安心感　基本的信頼感が育つ
② 母親以外の他者との人間関係が生じるころ

愛着は安全基地の役割を果たす＝自己肯定感を持ち探索行動を開始

⇒　知的好奇心、社会性、人間関係　スキルの獲得　外的ストレスや脅威に耐える力や立ち向かう力
　社会的役割の確保、遂行＝親密性の獲得

安全基地の不在⇒アイデンティティ（自分が自分である）自我の確立、自己同一性に影響を与える。

愛着障がいの対人関係の特性

① 継続した信頼関係や愛情の維持が難しい　程よい距離が取れない
② ストレス耐性が脆弱でネガティブな反応を起こす
③ 過去（自分の記憶）にとらわれ現在の関係を歪んで理解してしまう
④ 全体を見て総合的に判断することが苦手で部分的な事にこだわる
⑤ 依存しやすい

愛着障がいの対応には、医療的関わりと安全基地を作ることがあり、いざという時に頼る、守ってもらえると思える居場所が、心の拠り所、心の支えとなる人や社会的役割、職業的役割の確保にもつながる。
放課後デイやヘルパー事業所などの関わり方などとても勉強になりました。

●要援護者の防災を考える会

２・３月は次年度にむけて話し合いました。

●重度障がい者入院時コミュニケーション支援　３月２０日開催

重度訪問介護訪問先の拡大についての意見交換会

市役所障害支援課の竹村様に来ていただき、重度訪問介護の拡大について説明を頂きました。
制度が４月から開始するため、コミュニケーション支援とどうすみ分けしていくかは今後検討が必要であることなど話あいました。

●ささえあいまちづくり事業　　２月１０日開催

今年度は映画「みんなの学校」の上映をしました。ドキュメンタリー映画で小学校が舞台となり、子どもたちと教員、保護者、地域の人々が学びあい成長していく内容です。
すべての子どもに居場所がある学校を作っていく内容で、多数のご来場を頂き、ありがとうございました。
ホールでひまわり横丁･福祉事業所連絡会は展示等も開催しました。

また、地域の支援者から発表もいただき、とてもよい機会になりました。